

5/23 出エジプト記 16:1-12、17:1-7「不平を聞かれる神」

小池 宏明 牧師

皆さんは、最近、「不平」を言うような出来事があったらどうか？人は、どのような時に不平を言うのだろうか？先週の箇所では、イスラエルの民は、後ろからエジプト軍が迫って来る、目の前には葦の海が広がるという逃げ場がない危機的状況の中で「不平」を言った。敵の存在や自分を苦しめる出来事に直面した時、人は「不平」を言いやすいだろう。今朝の箇所では、民から「欠乏」、「飢え」、「〇〇が無いこと」、「△△が不足していること」に対する不平が出た。

*民の不平に応える主

エジプトを出発して、一か月後、第二の月の 15 日に、モーセが率いるイスラエルの民は、シンの荒野に入った。ごつごつした岩と砂、少しの草や木があるくらいで、まさに荒れ野原だ。エジプトから持ってきた食料も底を尽き、食べ物が無くなっただろう。食糧危機である。

イスラエルの民が体験した葦の海を渡るという大々的な主の救いの御業から、まだ一ヶ月しか経っていないのに、彼らの主なる神様への信仰は、薄らいで行ったのである。イスラエル人たちは、エジプトを懐かしみ、エジプトで死んだ方が良かった、とまで口走って、モーセとアロンに不平を漏らすのだ。しかし、主はその不平を確かに聞いて下さった。では、主なる神様は、民の不平を聞いたので、食べ物の準備を始めたのだろうか？決してそんなことはない。主は初めから計画を立てて、イスラエルが飢えることなく旅が続けられるように、準備をしておられたことだろう。

*マナは天から与えられたいのちのパン

民の不平を聞かれた主は、天からうずらの肉とマナ(天からのパン)を与えられた。この食べ物は、イスラエルの民がカナンの地で収穫を得るまで、毎日 40 年も続いた。

新約聖書で、主イエスは、自らが「天から与えられたまことのパン」「いのちのパン」であることをはっきり語り(ヨハネ 6 章 31-35 節)自らを差し出して下さった。

主なる神様は、かつてのイスラエルに、そして今日のキリスト者たちに多くのものを与えて下さっている。無い物に目を留めて不平を言うのではなく、あるものに、与えられていることに感謝して、それを喜び味わって行く日々を歩んで行こうではないか。

教会(神の家族)の誕生日といわれるペンテコステを記念するこの日、私たちに与えられている聖霊の恵みを感謝し、御霊によって導かれる人生を喜び楽しもうではないか。